



皆さんこんにちは！
 地域おこし協力隊の渡辺です。
 今月の集落支援だよりでは、大学生による奥川郵便局での調査などについて紹介
 します。



地域おこし協力隊 集落支援担当

渡辺 貴洋 隊員

奥川郵便局での調査

10月19日と11月16日の2回にわたり、福島大学岩崎ゼミの学生による郵便局の利用に関する調査が実施されました。この調査は、学生の視点を生かしながら、過疎地域での郵便局が果たす役割について研究することを目的としています。

岩崎ゼミの学生が奥川地区に来るのは、新型コロナウイルス感染症の影響で約1年ぶりとなりました。参加を楽しみにしていた学生も多く、両日それぞれ10人が参加しました。学生たちは、郵便局の利

用者の話に耳を傾けながら、郵便局の利活用について探っていました。

これまでの岩崎ゼミの活動は、主に集落に入り、人足の手伝いや集落ごとのイベントへの協力をすることでした。郵便局との関わりが増えたことで、できることの幅が広がり学生の活動も見えやすくなると良いなど思っています。

また、今回の活動で得た情報をまとめ、大学生の視点から見た課題と期待される役割と可能性を提案することになるので今後の活動も楽しみです。



奥川郵便局で行った学生による聞き取り調査

大学生との活動

なぜ大学生を地域に呼び込む活動をしているのか。大学生を地域に呼んでどんなことしているか気になっていたり人も多いと思います。

町では、人足をはじめとした今まで集落だけで行っていたことの維持が難しくなりつつあります。そのため、大学生などの地域に関わってくれる人を増やすことで、大変な作業も楽しみながら行い、集落の負担を少しでも軽くしようとするのを目的として活動しています。

とはいえ、人足の受け入れは中町集落と梨平集落のみで、受け入れ希望集落が増えていないのが現状です。これはボランティアへの対応などの点に、面倒や不安に感じていることもあるかと思っています。

中町集落の場合では、学生が山菜やキノコを作業しながら収穫し、それをてんぷらやみそ汁にするなど、お金をかけずに無理をしないでできることから始めています。



中町集落での交流会の様子(令和元年)

集落の人にとって当たり前
 の生活でも、大学生たちにとつては体験したことのない暮らしの新鮮さを感じるものがほとんどです。こうした動きが各集落に広がっていくと良いと思っています。

2021年もお世話になりました

雪が降り始め、冬の知らせが聞こえてきました。皆さんにとつて2021年はどのような1年でしたか？

2022年も良い1年が過ぎるよう、風邪などひかないよう体調には十分気をつけてお過ごしください。